資料２－２

自動車登録検査業務電子情報処理システム（ＭＯＴＡＳ）の業務・システム最適化の取組状況について

国土交通省自動車交通局
技術安全部管理課
平成１８年１１月６日

目　　次

１．　ＭＯＴＡＳシステムの概要 …… 1

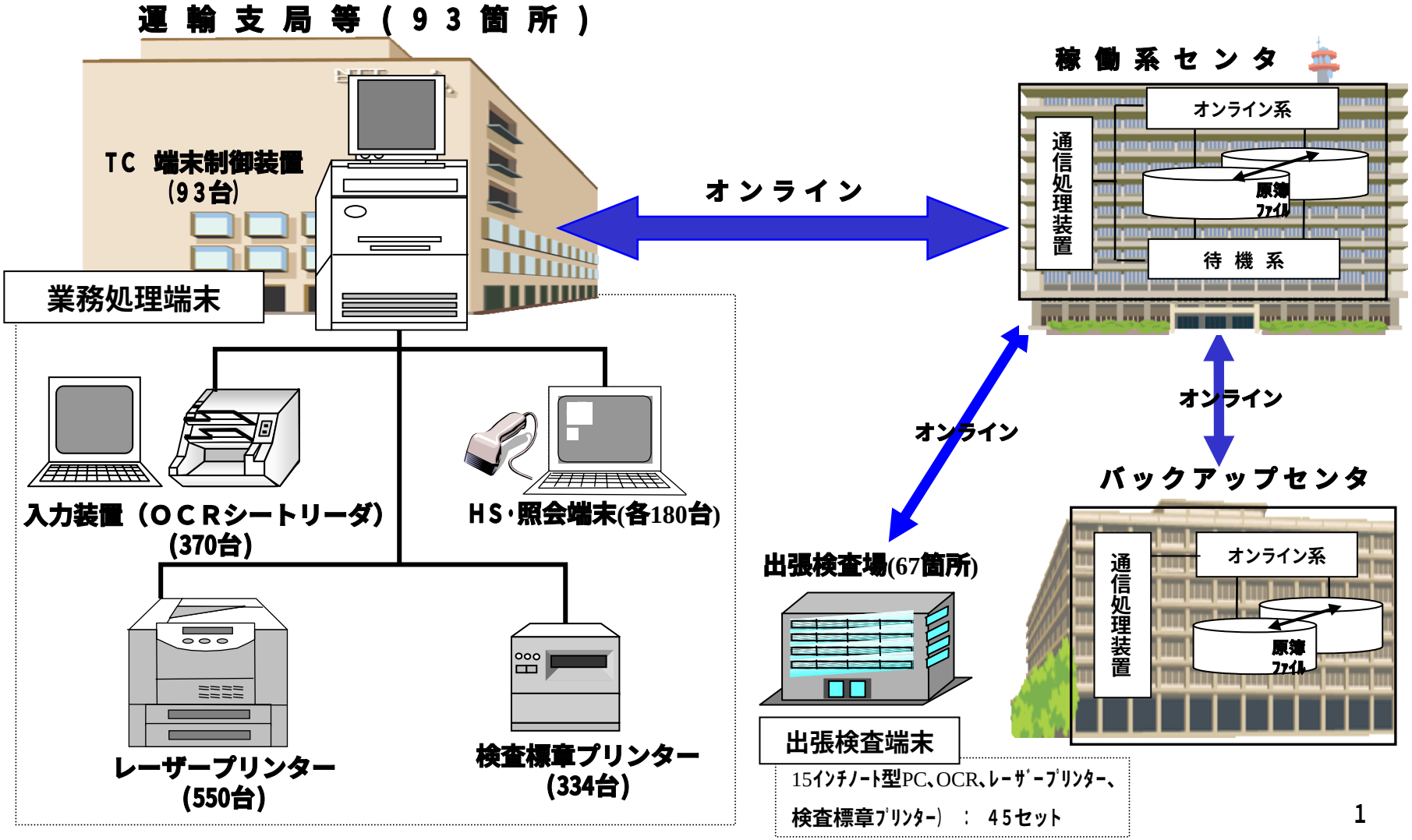
２．　自動車登録検査業務電子情報処理システム（MOTAS）業務･システムの最適化計画概要 …… 2

３．　次期ＭＯＴＡＳ構築スケジュール …… 4

４．　平成１９年度概算要求 …… 5

１．ＭＯＴＡＳシステムの概要

運輸支局、自動車検査登録事務所では、自動車の新規登録、移転登録、変更登録、抹消登録、継続検査等の自動車の登録検査業務を以下のようなシステムを利用して行っている。



2．自動車登録検査業務電子情報処理システム（MOTAS）業務・システムの最適化計画概要

平　成　１　８　年　３　月　３　１　日
国土交通省行政情報化推進委員会　決定
各府省情報化統括責任者（CIO）連絡会議　報告

最適化の理念

・　MOTASについては全国の自動車の運行に直接係るシステムであることから、常に信頼性の高い安定的なシステム稼動が求められている
・　このため、業務・システムの安全性・信頼性を確保しつつ、機能性・効率性の向上、可能な限り経費削減を図るなどの経済性を高めることを基本理念として、業務・システムの最適化を図る

最適化の目標

・　一層の信頼性、安全性、効率性、利便性を向上し、さらに質の高いサービスを提供できる業務・システムの追求
・　自動車保有関係手続のワンストップサービス・システム（OSS）の対象地域、対象手続の拡大と電子申請の普及による利便性の向上及び業務の効率化の推進
・　最適化の実施により、システムの設計・開発・運用に係る費用について年間約4億円以上の費用削減

最適化計画の具体的内容

1.次期システムのオープン化
- メインフレームシステムをオープンシステムへ移行
- 年間約4.3億円の費用削減が見込まれる
- ソフトウェア開発未償却残高以上の費用削減効果が見込めないことから、現行MOTASはライフサイクル終了時点（平成23年度12月）まで活用し、移行時期は平成23年度1月

データ通信サービス契約の廃止

2. システムインテグレータを活用した契約形態
- 競争入札へ移行 、ハードとソフトの分離調達が原則
- システムの設計･開発及びシステム運用を統括するシステムインテグレータを活用

3. サービスレベルの維持･向上
- MOTASの設計･開発･運用において維持･保証すべきサービスレベルを明確に定義し、管理していく必要があるため、次期システム設計･ 開発、及び運用において、委託先との間でMOTASのサービスレベルについて合意するサービスレベル契約（Service Level Agreement：SLA）を締結

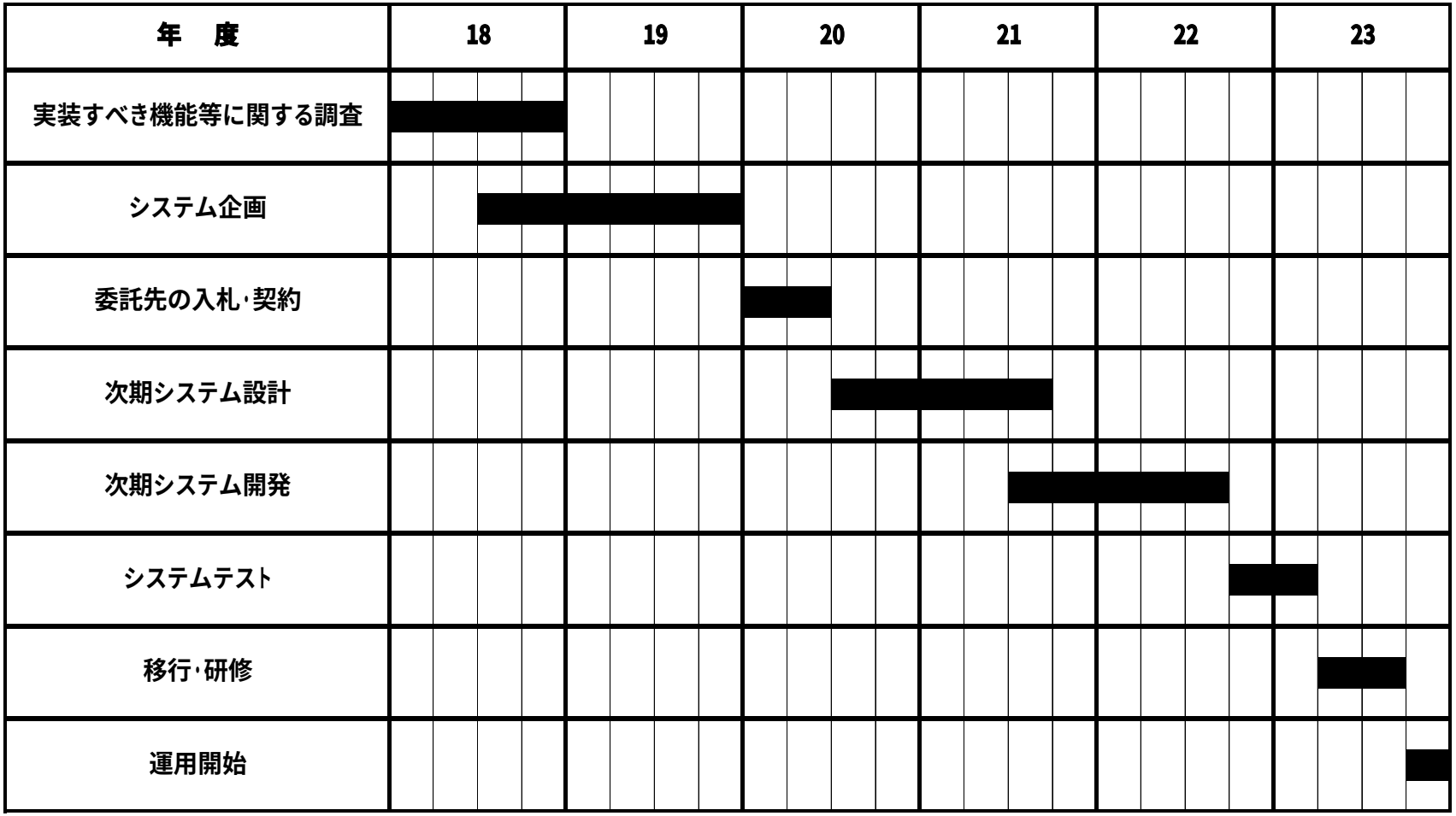
4. 調達仕様及び委託先選定基準
- 競争入札へ移行することから、確実な業務遂行能力を保有し、かつ最も適正な価格の委託先を評価選定するため、透明性、公平性を意識し、仕様を明確にした調達仕様書及び委託先選定基準を策定

5. MOTASの運用に係るセキュリティ対策
- MOTASに記録されているデータに対するアクセスコントロールや個人情報が記載されている申請書類の管理を中心に、MOTAS運用に必要な、具体的かつ詳細なセキュリティ対策を平成18年度中に策定

6. 業務の見直しによる効率化･合理化
- OSSの対象地域･対象手続の拡大と普及を踏まえながら、業務の効率化を検討
- 定型的な業務については、公務員の管理監督の下、業務遂行の信頼性を確保しつつ、外部への業務委託（アウトソーシング）を検討
- 住所及び所有者のコード情報の支局と本省による重複入力の回避

7. その他
- プロジェクトの適正な管理運営を監督するプロジェクト･マネジメント･オフィス（ＰＪＭＯ）の設置を検討

３．次期ＭＯＴＡＳ構築スケジュール



４．平成１９年度概算要求

平成１９年度概算要求における業務･システム最適化のためのシステム企画支援請負費として、約１０７百万円を要求している。

１．事業計画	平成１７年度において策定した業務･システム最適化計画に基づき、平成２０年度にシステム開発にかかる調達を行う予定であり、平成１９年度においては、「業務･システム最適化指針（ガイドライン）」に基づいた進捗管理を行いつつ、次期システム調達のための仕様書及び業者選定基準の策定（システム企画）を行うこととしている。
２．実施項目	①進捗管理 ②最適化効果指標･サービス指標作成 ③システム開発経費の概算要求額の積算書作成 ④仕様書の作成 ⑤設計･開発事業者等の選定基準策定